

わさんさんかく
「和算算額」

町指定有形文化財（書跡及び典籍）

所在地：大字坂城 所有者：個人 指定：昭和60年7月1日

この算額は、坂木村の和算家市川佐五左衛門（1828～1886）と菱田与左衛門（1835～1888）が和算の宗匠法道寺善からそれぞれ2問ずつ与えられた数学の高度の難問を見事に解決し、師匠より解法の免許を得たため、これを数学家の最高の名誉とし、解法を板に書いて収め、慶応元年（1865）村内北日名の天幕社に献額し、世人に披露したものです。

和算は江戸時代に発達して極めて高度の域に達したわが国独自の数学で、幾つかの流派を生みしました。広島出身の関流和算の大家法道寺善は、全国を巡歴して関流和算を広め、更埴地方にも多くの弟子を持ち、坂木村もしばしば訪れて逗留しました。佐五左衛門・与左衛門はこれについて学び、傑出した和算家となりました。

この算額（102 cm×62 cm）は一人2問、計4問についての解法を文章（漢文）と図形によって記し、坂木村の書家古谷鳳城が毛筆によって書いています。四つの問題は法道寺善の創案になる観新考算変の適用とされ、内容は極めて高度で、微積分や非ユークリッド幾何学の概念を導入し、現代数学の手法でも十分に解けていない難問とされています。

坂木宿ふるさと歴史館で、複製品を展示しています。

